

【短報】本州におけるオオムナビロコケムシの初記録

オオムナビロコケムシ *Cephennodes* (*Cephennodes*) *pullatus* (Kurbatov, 1995) は体長 1.3 mm ほどで、国内に分布するムナビロコケムシ属の中では比較的大型種になる。本種は国後島と四国(愛媛県石鎚山系)から記録がある日本固有種である(Kurbatov, 1995; 柴田ら, 2013; 保科, 2019)。筆者らは本種の福井・石川両県産標本を確認したため、本州初記録としてここに報告する。



図1. 石川県産オオムナビロコケムシ。(図1)。

1 ♂, 福井県勝山市取立山, 30. V. 2002, 保科採集, 保管; 1 ♂, 石川県小松市大杉町, 4. IV. 2020, 渡部採集, 保科保管

引用文献

- 保科英人, 2019. 日本産ムナビロコケムシ属の分類の現状 (I). 兵庫・中国・四国・九州編. さやばねニューシリーズ, (33): 1-9.
- Kurbatov, S. A., 1995. Sur les Euthiini et Cephenniini (Coleoptera, Scydmaenidae) de l'extrême-est de la Russie et du Japon. Revue suisse de Zoologie, 102: 943-959.
- 柴田泰利・丸山宗利・保科英人・岸本年郎・直海俊一郎・野村周平・V. Puthz・島田 孝・渡辺泰明・山本周平, 2013. 日本産ハネカクシ科総目録(昆虫綱: 甲虫目), 2013. 九州大学総合研究博物館研究報告, (11): 69-218.

(渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戊3番地
石川県ふれあい昆虫館)
(保科英人 910-8507 福井市文京3-9-1
福井大学教育学部)

【短報】広島県でオオズウミハネカクシを採集

広島県からこれまで記録のなかったオオズウミハネカクシ *Liparocephalus tokunagai* Sakaguti, 1944 を採集したので報告する。

1 ♂ 2 ♀, 広島県呉市倉橋町鹿島, 22. VI. 2020. 元永採集。

オオズウミハネカクシの再発見の報告(Senda, 2011)以来、筆者は愛媛県沿岸各地の調査を開始し、本種が燧灘から伊予灘沿岸にかけて連続的に分布していることを確認した(元永, 2019)。その後過去

に記録のある松山市興居島を起点に瀬戸内海中央部へと北上調査を続け、松山市興居島、松山市野忽那島、松山市津和地島において分布を確認した(元永, 2020)。今回はさらに北上して広島県の鹿島を調査した。

鹿島では同島南端の堤防に囲まれた1 km 足らずの転石海岸の一か所からのみ採集した。一帯の潮間帯上部は磯焼けがひどく全く海藻がない状態であったが、中～下部にかけてはガラモ場が点々と見受けられた。同種の生息条件としては決して良いとは言えないが、ヒジキに覆われた巨礫の周囲の海底面から辛うじて掘り出した。松山市での経験から本種は島嶼部では大きいのではと考えていたが、ここではやや小型であった。主要なエサであるヨコエビ類はヒジキの根に多く見られた。なお同所からは50匹を超えるキイロナギサハネカクシ *Bryothinusa tsutsui* Sawada, 1955 が同時に出てきた。このことから、同地における本種の主要生息ポイントはもう少し下部であったようにも思われる。ただ当日の天文潮位は干潮時 27 cm と採集にはギリギリの条件であり、これが限界であった。

末筆ながら、日頃よりご教授いただき、本報告にあたってご助言くださった酒井雅博博士に感謝申し上げます。

引用文献

- 元永 学, 2019. 愛媛県のオオズウミハネカクシの分布. 佐田岬半島の昆虫相. NPO 法人愛媛昆虫類調査研究機構. 平成31年度『三浦保愛基金』報告号: 72-82.
- 元永 学, 2020. 愛媛県南予地方のオオズウミハネカクシの分布調査. 愛媛県南予と周辺地域の昆虫相. NPO 法人愛媛昆虫類調査研究機構. 令和元年度『三浦保愛基金』報告号: 63-67.
- Senda, Y., 2011. Rediscovery of the intertidal rove beetle, *Liparocephalus tokunagai* Sakaguti (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae) from Shikoku. Elytra, New Series, 1 (2): 187-189.

(元永 学 790-0023 松山市末広町 15-2)

【短報】タオウブゲメツブテントウ(新称)の沖縄島における初記録および石垣島における追加記録

タオウブゲメツブテントウ(和名新称) *Pharoscyrnus taoi* Sasaji, 1967 は中国・台湾に分布する(林ほか, 2017)メツブテントウ族 *Sticholotidini* のテントウムシで、国内の記録は石垣市平得の1例(齋藤, 2015)のみである。筆者は沖縄島と石垣島において新たに本種を採集しているので、頂いたデータと共に報告する。



図1. タオウゲメツブテントウ(♂)
(スケールバー: 1 mm).

1 ex., 沖縄県那覇市首里末吉町, 16. IX. 2020, 筆者採集・保管; 12 exs., 沖縄県石垣市白保(新石垣空港付近), 25. II. 2020, 関峻大採集・保管; 1 ♂ (図1) 1 ♀, 沖縄県石垣市石垣, 4. I. 2020, 筆者採集・

保管; 19 exs., 沖縄県石垣市南ぬ浜町, 12. III. 2018, 筆者採集・保管; 18 exs., 同地, 15. III. 2019, 中村涼採集・保管; 62 exs., 同地, 4. V. 2019, 筆者採集・保管; 22 exs., 同地, 23. II. 2020, 関峻大採集・保管.

同定は原記載 (Sasaji, 1967) および齋藤 (2015) により, 外部形態と雄交尾器 (図2) がこれらの記述と一致することを確認した. また, 本種に類似する *Pharoscyrnus horni* (Weise, 1901) の原記載と, 同種の交尾器の図示された Chelliah (1965) も参考にした.

齋藤 (2015) では和名を提唱していないので, 著者の齋藤琢巳氏とも相談し, 以下の理由から命名した.

メツブテントウ族には別属にケブカメツブテントウ *Jauravia limbata* Motschulsky, 1858 がいるため, 「ケブカ」は使用を避けた. しかし, 単体で見ると十分に毛深く, 「ウスゲ」ともいえない. 「ムクゲ」は「長く垂れ下がった毛」であるため, これも不適切である. そのため, 本種には「短く柔らかい毛」という意味の「ウブゲ」を使うのが適切だと考えた. 合わせて, *Pharoscyrnus* 属の属和名も「ウブゲメツブテントウ属」を提唱したい.

末吉町・白保・南ぬ浜町ではソテツから (図3), 石垣では駐車場の植え込みから得られた. 南ぬ浜町のソテツ上ではカイガラムシ類の捕食 (図4), 交尾

(図5), 幼虫 (図6) も観察された. 幼虫の同定は Sasaji (1992) によった.

報告にあたり, 多くのご助言と文献の提供をしてくださった齋藤琢巳氏, 文献を提供して下さった福田悠人氏と高井泰氏, データを提供して下さった中村涼氏と関峻大氏, 文章の添削をして下さった伊藤淳氏, 阪本優介氏, および歳清勝晴氏に心より御礼申し上げる.



図3. ソテツ上の個体.

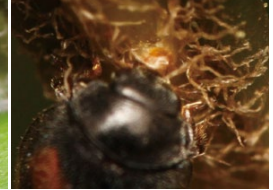


図4. 捕食.



図5. 交尾.



図6. 幼虫.

引用文献

- Chelliah, S., 1965. The male genitalia of a few predaceous Coccinellids (Coleoptera: Coccinellidae) of South India. *Indian Journal of Entomology*, (27): 165–167.
- 林 義祥・虞 國羅, 2017. 瓢蟲圖鑑. 336 pp. 晨星出版有限公司, 台中.
- 齋藤琢巳, 2015. 石垣島における *Pharoscyrnus* 属のテントウムシの記録. 月刊むし, (529): 52.
- Sasaji, H., 1967. A revision of the Formosan Coccinellidae (I), the subfamily Sticholotinae, with an establishment of a new tribe (Coleoptera). *Etizenia, Fukui*, (25): 1–28.
- Sasaji, H., 1992. Descriptions of four Coccinellid larvae of Formosa, with the phylogenetic importance (Coleoptera: Coccinellidae). *The Memoirs of the Faculty of Education, Fukui University, Series II (Natural Science)*, 42 (1): 1–11.
- Weise, J., 1901. Coccinelliden aus Ceylon gesammelt von Dr. Horn. *Deutsche Entomologische Zeitschrift* 1900, 44: 417–445.

(青井光太郎 158–0083 世田谷区奥沢 1–24–15–302)



図2. 雄交尾器. A, 腹面; B, サイフォ(側面); C, 包片(側面).